

こんな使い方をおすすめします！ 東京ベーシック・ドリル

【算数編】

1 算数の学習のポイント

算数は、以前に学んだことを活かしてさらに新しい内容を学んでいく「積み重ね」が重視される教科です。そのため、これまで学習したことが定着していないと前の学年で習ったことに立ち戻って思い出し、復習する時間が必要になります。この「既習の定着」「既習を思い出してから新しい学習にすすむ」ことを行わないと「分からままどんどん進んでしまう」「算数が苦手、きらい」となってしまうことが考えられます。

そこで、この臨時休業期間を、次の3点を行う良い機会と捉え課題に取り組んでほしいと思っております。

- ① これまで学習したことが定着できているか確認する。
- ② 定着していない学習を補充・定着する。
- ③ 再度、定着したか確認し、できたことで自信をもつ。

算数が好き、得意と思っているお子さんもたくさんいると思います。そのような場合、既習の定着だけでなく、自ら文章問題を作成したり、計算問題の桁数を増やしたり、図形を書いたりこれまでの学習を発展させて取り組むとよいと思います。

2 東京ベーシック・ドリルの有効な使い方

東京ベーシック・ドリル（算数）は、1の①～③ができるように次のような構成でできています。

- ・診断シートA～C…1の①を行うことができます。
- ・解説及び練習シート…1の②を行うことができます。
- ・診断シートA～C…1の③を行うことができます。

次頁にベーシック・ドリルの活用法の例を載せましたのでご参照ください。この臨時休業中の課題としてのみならず、今後のお子様の学習の進捗に役立てていただければ幸いです。

2ページ目に具体的な使い方を示しています。ぜひご覧ください。

《既習を定着させる学習方法～東京ベーシック・ドリルを活用して～》

<p>① 診断シートAに挑戦する。</p> <p>☆診断シートは、テスト形式で行い、途中で教えたりしないようにしてください。30分～45分間は必要です。</p>	<p>① これまで学習したことが定着できているか確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> この診断シートは、一つの学年で学習したすべての単元から1問ずつ出題されています。 例えば、2年生算数→診断シートA は、[1]～[11] の問題が出されています。よって、2年生では11個の単元の学習をしたということになります。 終わったら答え合わせをして、どの問題ができているか、どの問題が間違が多いのか等お子さんと話し合ってみてください。 診断シートで満点が取れるお子さんは、前学年の学習が十分定着しているといえます。
<p>② 練習シートを選んで挑戦する。</p> <p>☆練習シートは、診断シートで間違えた問題に合う学習ができるようになっています。</p>	<p>② 定着していない学習を補充・定着する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 練習シートは、①の診断シートの結果と連携しています。 <p>例えば、</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 2年生算数→診断シートA の[1]と[3]と[7]に間違いが多い。 </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 練習シートの[1]の 「1万までの数」 [3]の 「たし算」 [7]の 「りょうのたんい」 </div> <p>の解説を読み、問題に取り組みます。そうすることで苦手な学習を補充できます。</p>
<p>③ 診断シートBまたは、Cに挑戦する。</p> <p>☆診断シートは、テスト形式で行い、途中で教えたりしないようにしてください。30分～45分間は必要です。</p>	<p>③ 再度、定着したか確認し、できたことで自分に自信をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ②で苦手な単元の学習の復習を練習シートを活用して行った後、もう一度診断シートに取り組みます。 診断シートBもCもAと同じ構成になっています。数値等を変えている程度です。 診断シートBを丸付けし、診断シートAでできなかった問題ができていればその単元の学習が定着したといえます。 できていなければ、再度練習シートに戻るという学習を行うよいと思います。

このように、診断シート（テスト）→練習シート（復習）→診断シート（確かめテスト）を行うことで、定着を図ることができますので、ぜひお子様に挑戦させてみてください。